

筆山

第29号 / 2000年12月

土佐中・高等学校同窓会 関東支部会報

編集人/西岡 恒憲 (41回)

〒106-0032 東京都港区六本木3-16-12-7F 六本木司法書士合同事務所気付 TEL 03-3587-6200 FAX 03-3587-6201
E-mail : tsuruwa@mxq.mesh.ne.jp 関東支部ホームページ : www2u.biglobe.ne.jp/~tsuruwa/kantosibu.htm



平成12年11月17日母校八十周年記念式典が土佐高講堂において厳かに執り行われた。

傘寿

41回生 佐竹真一

昨年6月、エジプト観光省顧問としてJICAから派遣されカイロに着任した時、「dirty, dusty, noisy, crowded」、この4つの単語が、最初に頭にこびり付いた。首都がこんな第一印象では、観光開発の道程は険しい、二一七年までに外国人訪問者数を二七 万人にすると言う国家目標など夢のまた夢、えらい所に来てしまった、と禪を締め直したものだ。

焦りがちな自分に、任期は2年、七 年の歴史から見るとほんの三分の一、誤差の範囲だと言いつつ聞かせ、周りをじっくり見渡すようにした。しかし、時間が経過しても、折に触れてこの4つの単語が出てきてしまう。政府の要人達に会い、第一印象に触れる時、必ず微笑みを保って、この順序のまま話してきた。世界的な歴史遺産や紅海沿岸の大規模なリゾート開発に目を奪われて、足元の手入れを怠り、利己的な行動を放置しては、バラ色の未来はない、多くのエジプト人にも見える対策が必要だ、と機会ある毎に説いてきた。この1年の間に、カイロ市内で毎朝清掃される範囲が、ゆっくりながら着実に広がり、見違える程ゴミのない道路が増え、ナイル川べりの景観整備も進んでいるのは、この異骨相のせいもあるかな？とちよっぴり自負している。

母校は、まだ「僅か」80年の歴史だが、この4つの単語がもう当て嵌まり始めてはいないだろうか？「チリ一つないポロ校舎」を誇った伝統は、脈々として流れているだろうか？人間なら傘寿という誠に出度い節目を、到達点ではなく中継点として、21世紀に高々と帆を上げ、船出して欲しいものだ。

母校八十周年記念行事執り行われる

平成12年11月16日(木)、17日(金)の両日、土佐中等学校八十周年記念式典が盛大に執り行われました。



「記念講演」
土佐高生及び中学3年生対象
11月16日(木) 13:00
土佐高講堂
講師 岡村甫(32回生)
演題 「夢・努力・才能・運」



岡村先輩による「夢・努力・才能・運」の演題による講演が行われた。熱気が舞台から吹き寄せるようでもあり、体育館が春風に包まれるようでもあり、あつという間の90分の「講義」でした。その後質問の時間を、15秒で切りに掛かった司会者を押しとどめ、質問がなければ、此処から降りられない、とイゴソソウぶりを発揮され、これに誘われて生徒から手が上がる。やっと、土佐高らしくなって、遣り取りが噛み合って行きました。



「記念式典」
11月17日(金) 10:00
土佐高講堂



式典は、簡潔にして、要点を押さえた進行ぶり。校歌を歌い終ったのが午前11時。宇田理事長が、式辞にて、「百周年委員会を発足させて、ビジョンを描き、理事会直属の実行委員会を作って、この実現に万全を期す。この時に、此処に出席する多くは、この世を去っているだろうが、生徒諸君は、是非、引き継いでいって欲しい。」旨、言明。



「祝賀会」
11月17日(金) 17:00
高知新阪急ホテル



速報

関東支部活動報告

事務局長 鶴和千秋(41回生)

あと一歩、ほとんど掴みかけた甲子園、母校野球部の健闘に全国の同窓が手に汗握った夏も遠い日の夢のようです。イラレの事務局は、県予選の準決勝に進出した頃から、寄付金集めや甲子園応援ツアーの準備に取りかかり、全国の同窓に各地の代表校のビデオテープを頼んだりしたのですが・・・。「決まる前から余計なことするきイカン、事務局がA級戦犯じゃ」ときついお叱りを受けてしまいました。その興奮も冷めやらぬ8月5日同窓会本部総会が開かれ、関東支部からは宮地支部長、市川幹事長、佐々木副幹事長、溝淵顧問等が帰高、前夜の岡内幹事長の高知銀行頭取就任を祝つ会から、本番の総会、懇親会まで、今年も関東支部の存在感を存分に発揮してくれました。

2月24日(土)に行います。総会への注文、記念講演の希望、その他関東支部へのご要望がありましたら、学年幹事又は事務局へお寄せ下さい。



支部名簿発行に向けて

大石和男(40回生)

来年、21世紀最初の記念すべき年に、関東支部名簿を発行することとなりました。このため、今回訂正用カードを同封しました。本部発行の80周年名簿と見比べ、変更のあった方は必ずご返送下さい。名簿データの更新は、自己申告が原則です。この外、友人や学年幹事の連絡を頼りに、日々更新を続けております。神様がいつも見守っていて、更新を指示しているなど、自己中心的発想をしないで下さい。飽くまで、草の根の運動です。

最近、名簿を売り買いして、商売に利用する心無い人達を見かけます。かと言って、名簿を発行しないと、同窓生間の交流の絆が断たれてしまいます。名簿は同窓会の命です。お互い交流を広め、親睦を深めるために、ご活用下さい。

また、同期会を開く時などに、最新の情報を提供できませう。同期会は、新しい情報を得る絶好の場でもあります。事務局へもフィードバックをお願いします。左記にご連絡下さい。

oishi@thu.ac.jp

名簿は、財政的制約から、3年に1回の発行です。98年版の時は、編集と印刷で百二十万円、発送費で八十五万円、計二百十五万円掛かりました。これは七百名分の年会費に相当します。今までの会員数は二千六百名、会費をお納め下さった方は約八百人。一年分の会費が全て名簿に注ぎ込まれた勘定です。次回の会員数は約三千五百名。発送費だけでも百十五万円に増えます。大変な事になりそうです。社会人の皆様、年会費納入にご協力下さい。

最近では電子メールが便利で、これを通じて入会、更新をしてくる人も増えました。ただ、悪用されることもあります。次回の名簿にメールアドレスを載せるかどうか、検討中です。

以下は、本部への愚痴です。軽くお聞き流しを。5年前のことである。本部

から名簿が発行された。データが新しいものと信じた筆者は、支部名簿のデータベースに上書きし、数十人のデータを失った。以来、本部名簿を信用していない。

とは言え、多大な金と本部の威信をかけた名簿である。無視はできない。通勤電車の中、今回の80周年名簿を1頁1頁丹念にチェックしてみた。この3月、土佐高から要請を受け関東支部の最新データを送った筈である。5年前と同じこと、全く活用されていなかった。2年前に作った支部名簿からの転用も目立つ。データが古く、すぐ分かる。

80周年名簿と付き合わせる。関東支部への未登録者は九百五十八名にも上る。現在、一人一人に会員番号を割り当て、打ち込みを行っている。30回生までは流石に未登録者が少ない。30、40回代では、番号を打ち込むと「重複しています」と表示される。既に登録済み、支部名簿への更新が小まめに行われている証拠である。少し嬉しくなる。50、60回代は未登録者が多い。かなりの数、会員が増えそうである。70回以降、学生の住所はほとんど親元になっている。

深い配慮からか、単なる手振きなのか。

お悔やみ申し上げます

- 13 秦 親憲 H 9 7 2
- 18 山崎 栄龍 H 9 3 17
- 28 K 田井 淳夫 H 9 12 3
- 33 S 安岡 健一郎
- 35 O 岡林 邦夫 H 12 2
- 37 O 山本 晴茂 H 11 3 11
- 38 K 須藤 睦雄 H 12 5 22
- 43 S 西本 澄夫 H 11 9 26
- 45 K 戸田 雄幸 H 12 3 12
- 46 O 山本 賢治

(大分以前にお亡くなりになられた方で今回新たに判明したご逝去者も含みます)

母校より

学校長 森田幸雄

立冬も過ぎ南国土佐でもさすがに冷気が漲り始めました。関東支部の皆様にはますますご健勝のことと存じ心からお喜び申し上げます。

さて2学期も既に半ばを過ぎましたが、教育諸活動も現在まで順調に進行中であります。これもひとえに先輩諸兄姉の絶えざるご激励の賜物と存じ心から御礼申し上げます。

2学期最大の行事である第53回中高合同の大運動会も、1日延期をみたのみで9月24日生徒実行委員会の努力で盛大かつ整然と実施されました。全国的にも運動会的行事が衰微しつつあるとされる中で、本校の運動会はますます意気軒昂たるものがあり、これはわが校の誇るべき伝統的教育財産であると自負しています。先輩各位には機会あれば是非ご来場ご参加を頂きご激励を賜れば幸いであります。

ところで先日東京の折、羽田空港は往復とも中・高校生諸君で大混雑でした。修学旅行の最盛期であることを実感しました。本校も来年1月中旬高1生の修学旅行(集団研修)を予定していますが、従来型を見直し、越後湯沢でのスキーに加え東京でのコース別研修(例えば企業訪問や大学見学等)を実施することとしました。初めての試みですが、生徒諸君の自主的な研修を通して文武両道にも叶う、一味違った集団研修的行事に育って欲しいと希っています。首都圏での日程が多くなりますので関東支部の諸先輩には何卒暖かいご支援かたを心からお願い申し上げます。

最後にご承知のとおり11月17日には創立80周年記念式典が実施され、来るべき21世紀へ向けての大飛躍を学校関係者挙って誓い合う新たな契機になることを期待しています。先日も岡村同窓会長と宇田理事長とで21世紀における本校の未来像と、記念事業である教員研修の推進策等についてご協議を頂きましたが、学校といたしましてもそれぞれの項目に関し具体的実施計画の策定と実現がたに取組む所存ですので、このことに関する忌憚なきご意見ご要望をお待ち申しています。

向寒の砌、関東支部のますますのご発展と、宮地支部長さんはじめ会員各位のご健勝を祈念申し上げます。さて頂きました。

『薫先生』出版にあたって 坂本 隆(47回生)
関東支部の皆様、こんにちは。ご縁のいたいて母校に帰任・奉職することになって、はや10年目を迎える坂本です。昭和47年に卒業後、出身地に戻って大学生を送り、平成3年春まで神奈川の県立高校に勤務しておりましたので、その間18年、皆様の支部に所

属させていただいてお世話になりました。現在、長男がかつての私同様、ほとんど不熱心な幽霊会員(?)として、たまに支部総会に出席させていただいているようです。こいつが同窓会関東支部の有り難さを理解できるようにするには、まだ暫くかかることでしょう。不肖私の息子ですから、申し訳ありません。ご勘弁下さい。

さて本題に入ります。このたび、同窓会関東支部長・宮地貫一先輩をはじめ、関東支部の多くの同窓諸先輩のご尽力をいただきまして、拙著『薫先生・向陽の窓辺に遺されたもの』を出させていただくことができました。心よりお礼申し上げます。ただ聞くところによりますと、少なくとも二〇〇部は売れないと同窓会本部はこの事業で赤字になるそうで、私の拙文がそんなに売れるはずは毛頭なく、出版していただきながら、最初から困ったことになったものだと途方に暮れておりますが、現在の正直なところ

です。それはさておき、今回の『薫先生』をまとめる過程で、再確認させていただくことが

できたことは、母校・土佐の同窓生の「人材」がいかに豊富であるか、という改めての事実でした。そして、同時に本校が持つ宝"どの県内他校も及ばぬ優れた「人材」が、残念にも活かされていない、ということでもありました。具体例は説明を省きます。ここでは、私の述べる「人材」が、もちろん現在ご活躍中の皆様のことであり、同時に今は一線を退かれた方たちも含まれ、さらに数々の業績を遺されながら亡くなられた同窓大先輩の方々のことでもある、という点にのみとどめたいと思います。

そして、『薫先生』の生涯を訪ねた私のこの6年間は、私なりに土佐中学校・高等学校の80年を概観する作業でもありました。押しも押されもない戦前の少数英才教育の25年間から始まり、戦後、苦難の底から再建を果たし、いち早く中高一貫・男女共学・多数英才・文武両道を取り入れて教育界に旋風を巻き起こした昭和40年代前半まで、そのほぼ半世紀の間に本校が果たした役割が絶大であったことは、改めて論ずるまでもないでしょう。そして、それが

現在までの約30年間で、それまで蓄積してきた貴重な財産を食い潰してきたというご批判に対して、残念ながらそれを全否定できない状態であるところもまた、認めざるを得ないところでは、

しかし、『薫先生』のあとがきで触れたとおり、過去を昔物語で懐かしむだけで現在を嘆くよりも、建学黎明の礎となった同窓諸先輩の確かな足跡を検証することから、これからの土佐の生きるべき姿を共に考えたい、というのが今回『薫先生』に取り組んだ主題です。土佐校教育の真価が問われるこれからの20年に向けて、将来同窓の同志となるべき現役の子供たちと、さらに本校の宝である同窓諸先輩の皆様と共に、私たちの愛する母校・土佐の、これからの未来を語り合いたいと思えます。そのきっかけとなれば、『薫先生』のはたすべき役割の一端は全うされた、ということになりましようか。

今後、関東支部の皆様には、愚息ともども宜しくご指導の程をお願いして、「発刊にあたって」の結びといたします。有り難ございました。

ある日の図書館風景

土佐中・高等学校図書部長

門田 美和 (38 年生)

10月27日(金) 3時限目
1年E組

閲覧室いっぱい、49名の男子女子が仲良し同士ですわっている。静寂——集中して各々読書している。一言も話し声は聞こえてこない。

森本教頭が「中2集団研修」

引率のため、「自習」となったこの時間、「監督」となった私は、「筆記用具、自習道具を持って来るように」と指示。まずは、課題の英作のプリントを配布。「提出終了後は、好きな本を読んでいいですよ。」の一言で、いっせいにプリントにとりかかる。20分もすれば大半の生徒は終了。30分後には、3人の女子だけがプリントにむかっている。

35分経過。一周してみる。

教科の勉強している女子2名。雑誌コーナー(25種あり)の前には男子5名。マンガコーナー(手塚治虫全集等)に男子5名が床にすわりこんでいる。その他各々、好きな本を手に取り没頭している。心を耕す——こんな時間を持つことの大切さを、また、かみしめる。「朝の10分間読書」が

できなくても、こういう時をこの学校でも持たせたいものだ——と考えていると、1人の女子生徒がカウンターの前に立っている。「利用者カード」と、本のバーコードをスキャナーで読みとる。ピッピという音だけが、閲覧室に響きわたる。彼女はゲーテのファウストを借りたのだ。頼もしい・・・。45分後最後の女子も提出。入口の正面には「新書図書」の棚、その続きには特集コーナーがある。80周年の記念講演会に予定されていた大原健士郎先生(24年生)の著書23冊が並んでいる。「森田療法」を継承した大原先生の、語りかけるような易しい本を集めてみた。一人でも多くの生徒が、先輩の仕事に触れてもらいたいものだ。そういえば、昨日から小村先生の高一倫理「自分史」作成が始まった。2週間で生徒達は仕上げなければならぬ。新聞の縮刷本や年鑑類が大活躍する。閲覧室に活気の生まれる時期だ。

3時限目終了のベルが鳴った。誰も立ち上がろうとしない。委員長に促して「起立、礼」で終了。私も、英作のプリントを森本先生の机に届け

るために席を立った。なお、本年度4月から、本校の図書館業務は全て機械化された。詳細については80周年記念誌に掲載。

本部だより

幹事長 岡内紀雄(34年生)

関東支部のみなさん、ご機嫌いかがですか。

高知では8月5日(土)、高知新阪急ホテルにおいて、新卒75回生を含む多数の同窓の出席を得て、二年度の総会、記念講演ならびに懇親会が盛大に開催されました。総会では、本部ならびに関東・関西・東海・広島・香川各支部の活動報告があり、収支決算・予算が承認されました。

記念講演は、37回生で株式会社西日本科学技術研究所・代表取締役の福留修文氏による「自然環境の復元をめざして」津軽・下北から屋久島への旅」というテーマで、スライドの画像を使ってのお話から、コンクリートで固めた味気ない人工的な改修工法を改め、近自然工法によって河



岡村同窓会長のご挨拶

め多数の懐かしい先生方を交えて、サッカー部OB会の澁刺とした司会進行のもと、永年同窓会活動にご尽力いただいた本部ならびに各支部の役員の方々に感謝状を贈呈、新旧同胞、杯を交しつつ、思い出話に花を咲かせ、応援歌を合唱、創立80周年を迎えた母校にエールをおくりました。今年、5年ぶりに会員名簿を発行いたしました。同窓のみなさんには現況調査や広告の掲載に多大のご協力をいただき、誠にありがとうございました。なお、協力金につきましても、よろしくご高配下さいますようお願いいたします。また、記念出版「薫先生」の購読も合わせて、よろしく願っています。来年(21世紀幕開け)の総会は、8月4日(土)に開催いたします。関東支部のみな

川の生態系を再生していく様子や、石組みを活用した屋久島の登山道の修復過程が良く判りました。人と自然の共存が重視されている今日、福留さんのますますのご活躍をお祈りいたします。懇親会は、森田校長をはじめ



関東支部からは市川新幹事長が出席

さん多数のご参加をお待ちしています。

東海支部だより

わかしゃち編集担当

内山順子(35回生)

関東支部の皆様、お元気で

二 年を振り返ると

いろんなことがありました。プロ野球は読売巨人軍の日本一といことで終了し、関東地方にはいろいろ波及効果もありましたでしょう。まずはおめでとございます。こちらの中日ドラゴンズはセ・リーグ2位でした。

シドニーでの、オリンピック・パラリンピックではとりわけ女性の活躍が目立った気がします。土佐のはちきんもどんだん台頭してほしいものです。

災害ということでは、9月11日から12日にかけての豪雨で、愛知県はたいへんな被害を受けました。百年に一度と想定された時間降雨量百ミリが簡単に突破され、あちこちで川から水があふれだし、決壊し、たくさんの方が浸水しました。水に浸かっ

たら、車も家屋も家財道具も使いものにならなくなります。失われた物の被害と、ゴミとなつて残された物の始末という被害と・・・今年中にはどうも片付かないでしょう。都会生活はもろいもの。雨の中で私は、こんな川柳をつぶやいていました。

和尾

しかし突然でない人生もあります。東海支部の支部長大高坂秀雄氏は、名前に「記憶の方もありでしょうが、南北朝時代の大高坂城主・大高坂松王丸の直系のご子孫。このたび高知市役所前の記念碑の前で、没後六百十年祭を主催されました。変化の激しい世の中ですが、続いている歴史とか伝統とかは大切にしたいものです。土佐高の歴史も80年。伝統のなかに進取の精神を育む私たちの母校は、あらたな世紀へと大きく羽ばたいていくことでしょう。

関西支部だより

幹事 鎌田振吉(41回生)

関東支部の皆様、ご機嫌いかがでしょうか?いざさか、旧聞になりますが、昨年末の高校サツカー選手権での土佐高試合応援の際は、たいへんお世話になり、厚く御礼申し上げます。関西支部では、永野支部長以下、11月の会報「なんぶつ」の発刊、来年1月13日(土)の関西支部新年総会の開催に向けて、頑張っております。また、この秋から、ドメインを取得し(<http://tosa-ko.org/kansai/>)公式ホームページをスタートしました。内容の充実は、これからですが、ホームページでは、先輩の関東支部に追いつけ追い越せを合い言葉に、頑張りますので、どうかご期待下さい。

同窓会活動というと、恐らくいつの時代も、若い人の関心が薄いのでしょうが、地球温暖化と同様、年々、求心力が失われていっているように思われます。母校の学業成績の不振は今に始まった話ではないのですが、嘗てのように文武両道を誇れなくなっただ点も、大きいのでしょうか?話しは横道にそれますが、この夏の高校野球は、本当に惜しかった。甲子園の地元である

関西支部としては、母校の甲子園出場以上の朗報はありません。8回裏には、密かに快哉をあげて、「これで、なんぶつ」の原稿はできた!とか、「甲子園のアルプス席に土佐弁が戻ってくる!」とか、いろんな思いが頭をよぎり、9回の攻防に息を潜めたのに・・・あ、あ、関西支部の野球部の消息通の話では、「これで、当分、甲子園は遠い」らしいです。

大阪に出てきてから、はや35年が過ぎました。学生時代は、あれ程たくさんいた土佐の先輩・後輩達も、いつの間にか周囲には殆ど居なくなりました。そんな中、久しぶりで学生の中に、後輩を発見した時の喜びは、ひとしおです。いやはや、情けないと言つべきなのかもしれませんが、しかし、こんな時代だからこそ、先輩・後輩を繋ぐメディアとして、また、忙しい毎日を通して、ごされている同窓の方々にも、関西支部の活動が見えるようにするということ意味で、ホームページの開設は重要と思えます。気になるのは、この分野の話になると、見えてくるのが母校及び同窓会本部の消極性と云う世間の噂です。ま

るで、コンピュータ社会に抵抗する従来の日本型社会構造(某政党とは云いませんが)といった構図です。そもそも、関西支部でドメインを取得すること自体、へんな話して、何故、同窓会全体で考えないのかと思いますが、実際には、そつじない先には進めない、というのが実情です。少なくとも、この分野に関する限り、関西支部にしても、関東支部にしても、嘗ての脱藩浪士の集まり、みたいなもんなんでしょね。

最後に、二 年関西支部活動報告を挙げて、支部便りとして頂きます。00年1月15日、関西支部新年総会。会場：新阪急ホテル「星・月の間」。出席者：来賓7名を含む122名。来賓を代表して岡村会長から祝辞を頂く。母校代表、森本教頭は今年の進学率の話をされた。1月22日、広島支部総会(広島県民文化センター) 中山事務局長出席。5月20日、東海支部総会(いわゆ) 永野支部長出席。5月27日、関東支部総会(国立オリンピック記念青少年総合センター) 竹下幹事長出席。

7月1日 香川支部総会(ニュー
フロントエアホテル) 竹下幹
事長出席

8月5日 高知本部総会(高
知新阪急ホテル) 川崎副支
部長、竹下幹事長出席

11月中旬 なんぶつ21号発行
予定。総会案内状と共に会員
一四 名に発送予定

01年1月13日(土) 関西支部
新年総会。19時開宴、21時30
分開会。会場：リッツカール
トンホテル大阪4階 ザ・リッ
ツカールトン・ボールルーム
(ザ・ウエストルームとザ・
セントラルルーム)。(06)の
343,700。多数のご参加をお
待ちしております。

広島支部だより

支部長 沖 修一(40回生)

関東支部の皆様、こんにちは
は、今年の広島はカープもサ
ンフレッチェも冴えない成績
でしたが、同窓会広島支部は
頑張っています。目下のこ
ろ、平成12年11月25日に行わ
れます。広島支部総会の準備に
向け多忙な日々です。

広島支部の支部会報「青春」
は10号を広島支部総会に間に

合わせるための編集も終わり、
出来上がりをお待ちのみなさん
に。 「青春」はJustin
atorを使用し、Macintoshコ
ンピュータで作成しており、
写真もフルカラーとなっております。

今回の試みとして同窓
生で広島で活躍しておられま
す方々を中心に、無理をお願い
いまして有料で広告を出し
てもらいました。広告も出来
る限りフルカラーで作成致し
ました。 関東支部の方々で広
島支部の支部会報「青春」に
美しいフルカラーの広告を出
しても良いとお考えの方がい
らっしゃいましたら大歓迎致
します。是非広島支部事
務局の方に御連絡下さい。

広島県の尾道市と愛媛県の
今治市を結ぶ「しまなみ海道」
の開通以後は殆どめばしい変
化のない広島ですが、来年は
待望の広島市内から羽田まで
を往復するジェット便が開通
しそうです。現在の広島空港
は広島から高速道路(山陽自
動車道)を通してシャトルバ
スで約1時間、自家用車で40
分ほど東に行った所にあり、
実は大変不便な思いをしてい
ます。広島には広島空港とは
別に広島市内の真ん中の海岸
よりの所に、コンピューター専

用の広島西飛行場(ヒトジヨー
という響きがノスタルジック
で良いですね)というのがあ
ります。この飛行場から百人
乗以下で小さくて騒音の少な
いジェットを羽田に飛ばそう
という計画です。広島西飛行
場は広島市の繁華街から市内
バスで20分程度、タクシーで
10分程度の所にあり、大変便
利です。ちなみに拙宅からは
自家用車で約10分で着きます。
広島西飛行場と羽田の間に小
さなジェットが飛ぶようにな
りますと、当然のことながら
エアバスなどの大型ジェット
が飛んでいる広島空港と羽田
間の客が減ると予想されます。
このため、この計画には反対
もありませんが、要望は非常に
強く、かなりの確率で実現し
そうです。こうなりますと関
東支部の方々も広島に楽に来
ることができるようになるの
ではないかと思えます。

これからの冬にかけて広島
は食通にはこたえられない季
節になります。瀬戸内であれ
る新鮮な揚げ(かわはぎ)の
肝(きも)と唐辛子とわさび
であえた醤油で食べる刺身の
異様なつまさは、忘れられな
い舌の記憶として残ります。
関東支部の方々も広島でお会

いできますことを楽しみにし
ております。

香川支部だより

幹事 熊野 貴磨(40回生)

関東支部の皆様こんにちは
香川支部では、今年の7月1
日に恒例の総会ならびに懇親
会をJR高松駅近くのホテル
ニューフロントエアで開催し
ました。当日は、母校から土
居徹先生をはじめ、同窓会本
部ならびに各支部から多数ご
出席いただきました。関東支
部からも、市川幹事長に出席
をいただき、誠にありがとうございました。
ございました。9回生から75
回生まで総勢50名の幅広い年
齢層の方々の参加を得て、こ
れまでになく盛大な総会・懇
親会を開催できたことに支部
役員一同感謝しております。

今年の総会の大きな話題は、
事務局の設置と香川支部名簿
の作成でした。香川支部では
本会の一層の充実を図るため
発足当初の体制の見直しを行
い、今回新たに本部・他支部
との窓口となる事務局を設置
することにいたしました。また、
かねてより当支部の懸案であっ

た支部名簿については、同窓
会本部をはじめ関係者の皆様
の絶大なご支援により完成し、
総会の場で会員の皆さんに配
布することができました。

さて、私事で恐縮ですが、
今年の夏の暑さもピークだっ
た頃、丁度8月上旬に、親
しく付き合っている大手出版
社の女性編集者から、突然東
カナダへの旅のお誘いを受け、
成田からトロント、ケベック
を経由し、プリンスエドワー
ド島まで行って参りました。

旅の楽しさは言うまでもなく
一言では語り尽くせません。
オリジナルの旅の行動日程は
濃く詰まっています。「カナダ
からの手紙」は友人の半分な
しか投函できませんでした。

私の目や耳に刻まれた街の灯
り、風の匂い、草木のざわめ
き、新しい友人達・・・これ
らの記憶は、きつと私をチヤ
ージし、奮い立たせてくれるこ
とと思えます。またもう一度、
訪ねてみたいと思わせる東カ
ナダの空と太陽の輝きでした。

最後になりましたが、関東
支部の皆様は今後益々のご発
展のご健勝をお祈り申し上げ、
香川支部からの近況報告とさ
せて頂きます。

第4回土佐高ハイクの会

雨の立山登山



土佐高ハイキングの会から立山・黒部アルペン旅行の案内状が届いてから暫くして、同期の中島君から電話がかかってきた。「今度の立山は登山組とハイキング組に分かれるが、おまは富士山にも登ったとき、一緒に立山にも登ろうよ私も二つ返事でオーケーした。3年前の富士登山で何とか頂上まで辿りつくことが

できたあの時の爽快感を思いだし、今度行くなら絶対登るとの気持を強く抱いた。

7月14日夜10時過ぎ総勢29人を乗せた貸切バスは新宿を出発、関越から北陸道に入り朝5時過ぎには立山駅に到着した。登山組は私を含め7人、残りのハイキング組より一足早く6時過ぎケーブルと登山バスを乗り継ぎ、残雪の盛土を見ながら登山の出発点である室堂ターミナルで降りた。梅雨前線の影響で小雨交じりのやや肌寒い感じであったが皆登るといふ。男性は同期の中島、沢田の両君、女性は浜松から来た同期の下村さん、55回生の金澤さんとその同僚70回生の野町さんの7人。皆トレッキングシューズ、登山合羽で完全武装、私だけセーター、綿のズボンの上からゴルフのレインウェアで運動靴の軽装である。

8時過ぎに出発、しばらく私が先頭に立ち緩やかな雪渓を踏みしめながら歩いていくと息が切れてきて野町さん、中島君に先を譲りゆっくり進



38

む。後は沢田君等が続く。1時間余で中腹の一の越山荘に着いた時は雨足が少し強くなり視界も狭くなった。これからは勾配の急な岩と岩との間を縫うように進む。先頭の野町さんは上智大学山岳部の出身だけありどんどん登る。続いて若い金澤さんとその同僚

55歳を過ぎた同期の4人はどうしても遅くなり、小休止を繰り返す。どうにかこうにか頂上の神社に辿り着いた時は本格的な雨となり、風も一段と強くなっていた。しばらく

神社の中でストープにあたっていたが風雨が激しくなってきたので記念写真を撮り、直ぐ帰ることにした。

野町さんを先頭に降りていくが寒さと突風でなかなか思い通り進めない。膝が硬くなり時々足を取られる。足をまっすぐ下したつもりが膝がかじかんで横に流れる。岩に手をつき、滑るように足を動かす動作を繰り返しやつの思いで一の越山荘に戻った。小休止の後緩やかな雪渓を下っていくが、雨で雪がとけた後寒さで固く凍っており、時々足を滑らす。運動靴の私に中島君がストックを貸してくれた。雨足はどんどん激しくなり視



界は10米位かと感じられる程度までしか見えない。途中室堂ターミナルへの方向が分からなくなり、すれ違う登山者に道を尋ねながら全員無事帰還できた。皆全身ずぶ濡れである。特にゴルフのレインウェアを脱いだ私はセーター、ポロシャツ、ズボン、靴の中まで濡れていた。着替えは最初の貸切バスの中に置いてきたので、そのまま体温で乾かすより他にない。ターミナルの喫茶室でホットコーヒーと甘酒を頼み昼食の弁当を食べた時、寒さでガクガク震えた。しばらく経ち半乾きになっ

てから、トローリバスに乗り、トンネルを抜け、天気であれば黒部ダムが一望できたのである。大觀望の地上80米の大ケーブルを楽しみ、まるで炭坑の中に下っていくのかと感じられるトロツケーブルを乗り

継ぎ黒部ダム堰堤についた。ダムの上から下を覗くとその放流は壯観である。一瞬身が怯みそうになった。対岸にし

ストラップがあり、後発のハイキング組が私達を待っていてくれた。ハイキング組は黒部湖の遊覧船で景観を楽しみく



第4回土佐高ハイクの会を終えて

37

土佐高ハイクの会の発端は、38回生の岡田四郎君が幹事役となり富士登山を企画したことによるものです。3年前の1997年、いつも飲み会で「一生に一度は富士山に登ろう」という声が出てもう4、5年経つが、飲んだときだけの話で段々と年をとってくるきに今年は是非とも実行に移すから37回生からも参加者を募って欲しい、ということで始まりました。当初は37、38回生が中心でした。

富士登山の帰途、思ったより早く新宿に着いて2次会となり、今回折角登山用具をそろえたのに1回限りではもったいないので来年も何処かへ行こうやとの声が大きくなり、以降1998年尾瀬、1999年乗鞍・上高地、そして今年の立山・黒部と計4回となりました。参加者の年齢層も23回生の森大先輩を頭に70回生の野町さんまで幅広くなりました。

立山より帰った翌週の日経新聞プラス1(土曜版)「何でもランキング・行ってみたい山」によると、1位尾瀬、2位富士山、3位穂高岳・上高地、4位阿蘇山、5位立山となっていました。このうち偶然にも阿蘇山以外はこの4年間で実行したことになります。続いて、6位大雪山、7位霧が峰、8位那須連峰、9位八ヶ岳・八ヶ岳高原、10位磐梯山・磐梯高原となっておりますが、来年の幹事さんには何処を選んでいただけるか楽しみです。

例年7月20日「海の日」の近辺でスケジューリングしていますので、今までお声が掛かっていない方は次回幹事38回生中島宏君まで何時でもお声を掛けていただければノミネートしておくと思います。皆様ふるってご参加ください。

つろいでいた。少し休んでから全員トローリーバスで扇沢に下り、待っていた貸切バスで当夜の白馬の旅館に着いた時は午後6時前であった。その夜は食堂で大宴会である。森先輩の乾杯の音頭に始まり酒を酌み交わしながら和気あいあいと話が弾む。生憎の雨であつたがそれぞれが日中の登山あるいはハイキング等を堪

能し満足感で一杯であつた。老いも若きも土佐中高の青春時代に戻り大いにはしゃいだ。一晚熟睡し翌朝5時に目が覚めた。前日ははつて変わつて上天気で、朝食の後、八方尾根、北アルプスの山々をバックに記念写真を取つた時は、靑空が昨日と代つていればと少々恨めしかった。オリンピックジャンプ場を見学の後、安

曇野の緑山美術館、大わさび農場に立ち寄り、中央道で無事新宿に帰り着いた。わずか2日間の小旅行には違いないが、仕事とか家庭とか世間の些事を忘れ、ただ山に登つたという何とも言いようのない満足感が残つた。又来年の旅行には是非とも参加したいと思う。

思いでの先生方

山本直四郎先生

父・山本直四郎

長男 山本誠一（43回生）

父、山本直四郎は平成12年8月13日午後7時10分、肺癌にて死亡いたしました。享年78歳です。父直四郎の思い出を同窓会誌にとのご依頼をいただき、息子として家庭での父、教え子を通しての父の思い出を書かせていただきます。

父を語るとき、やはり、酒、野球、釣り、麻雀、囲碁をはずすわけにはいきません。「姓は山本、名を四郎」というツカミで授業をはじめたと思います。数学の授業の事については皆様方が詳しいと思いますので省かせていただきます。というのも、父は



若い頃、職員室で

酒の話を致します。私が土佐高を卒業するまでに父が担任をしたのは33回、36回、39回、42回です。ちょうど、日本の経済復興期、社会全体に力がみなぎっていた時代だと思います。33回の猛者は運動会の後、居酒屋業で集まって呑んでいた様で、次の日に父に呼び出され、「おんしゃら、昨夜葉で呑

むしる数学以外の事で先輩、同僚、生徒の皆様可愛さうに愛されていたと思うからです。ただ数学の単位に関する話で、こんなことがありました。赤点をとった学生に友達が付

き添いで来て、「先生、俺の点数を分けちゃってください」と父に頼んだことがありました。「よし分かった。おんしの点をわけちゃる。そしたら、お前が赤点になるぞ」「いや、それも困る。一寸、待って下さい」と言つとで、4人ぐらいに声をかけたとか、教室のカーテンを洗ったかで赤点を回避したということがあったそうです。



みよつたろが」と怒られたようです。

「いや、呑んでいません」証拠はあがつちゅうに、しらすをつき通したそうです。

こういう人達が正月にはまるで我が家のように私共の家にまゐります。母親が大晦日



運動会で（中央）

にはおせち料理を造るのです。が、33回のある人などはすでに呑んでいました。除夜の鐘が鳴る少し前に「先生、今年はお世話になりました。来年もよろしく」と言つて帰つてゆきます。この方は近所に住んでいましたので、何分もせずに「明けましておめでとうございます」と言つて、その

まま居続けです。ある年などは正月三ヶ日で一升ビンが何十本も空になつていました。

卒業生が毎年増えてゆくのは当然の理で、正月の再訪者があまりに多くなつて来ました。

ある年両親は一計を案じ、玄関に難問・珍問を掲示してこの問題を解いた者のみ入室下さいといつて待ちました。が、結果的には殆ど無駄でした。

悪とも（二）当人達の弁による）

は玄関の問題を見ると、「失礼しました」と行つてすぐ出ていったのですが、「裏口入学です」と勝手口から堂々と入ってくるのです。又、厳格な親を持った生徒さんもおられまして、酔つて我が家に泊まった際、帰りづらくしているの、父は察して、確かに我が家に泊まりましたという証明書を書いて持たしたこともありました。二度も、三度も同じ手は使えんぞと釘を指したそうですが。

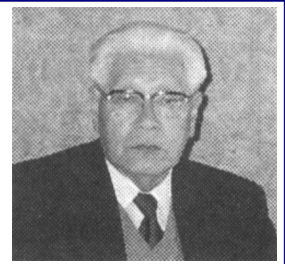
父の酒好きを端的に表す言



昭和34年頃（後列中央）

葉に、「直四郎、行きは7分、帰りは3時間」というのがあります。当時、北新町に住んでおりまして、出勤は自転車で7分ですみます。帰りは途中で中種の飲屋街がありますので、一寸、寄り道をちよくちよく、帰ってくるのはすぐ分かります。一寸先からその時々流行歌がなり立てて来るからです。「無法松の一生」、「一週間に十日来い」などはじっくり、子供の身体にしみ入ったものです。

あの昭和45年公風10号の時、私たちは祖父の葬式で母の実



阿川弘之の小説を下敷にした、倉本聰のシナリオ「舷燈」を読み返した。

主人公の牧野は、戦争体験を書く作家だが、それを知つてある居酒屋に居合わせた学生が絡んでくる。議論が噛み合わない。牧野は怒りを抑えて云つ、「昔はネ、親と子、先生と弟子、先輩と後輩の間には、礼節を重んじたもつと親しい会話があつたもんだよ」とすると学生はすかさず「礼節とは何ですか」と反発する。傍らで聴いていたおかみが、たまりかねて一喝する。「礼節というのはネ、目上の人には目上の人に対する、知らない人には知らない人に対する口のきき方があるんだよ」と昭和四十年代の昔の胸のすくセリフだ。そつ。ことばのはしばしにも自ら出てくる、他人への尊敬、思いやり、優しさ、が礼節だ。それがいまは、五千万円も

中学生にたかる奴。殺人を経験してみたいと無造作に人を殺す高校生。世も末とはこんな世の中のことだ。礼節という日本語が時の流れにおき去りにされていく虚しさを、今私は実感している。こんなに乱れて、これからの日本はどうなるのかと思つ。果して礼節は取戻せるか。

そんな矢先、先日テレビで神戸の定時制工高の卒業生のドキュメントを見た。

泣き虫 弱虫 怒り虫

礼節は取り戻せるか

夜間の定時制に通う元不良の長沢くんは、何度毛職を転々とし、やっと気に入つた工務店に入れた。あるとき足腰の弱つた老人の家の修理を委された。老人は修理の進具合が気になるが、動けない。それを察して長沢くんは老人を車椅子で外に出し、自分の仕事ぶりを見せた。親方はそのことを老人からあとで聞いて、長沢くんの優しさを見直したという。老人に思いやりをみ

せ、自らはそれを云わない。貧しさにめげないそんな若者に礼節のころがあったことに、世の中まんざらすてたもんじやない、と妙にホツとした。

そつ云えば私の身边にも、たとえばある朝、駅の小さなエレベーターを降りると、通学の女子学生が屯して出て口をふさいでいる。若いもんは歩けばいいのに、と内心思いつながら「降りる方がさきだろ、通してよ」と云つと、素直に黙つて後ずさりして通路を空ける。云われたらする、のが気に入らないが、本当はそつすべきだと思つていてもそれができない。何かキツカケを待つてるんだな、と考える。

だとすると、人間こころの中に潜む礼節の芽を引出す手段は、大人たちからの呼びかけからはじめるべきではないか。他人にいいことをしたときの爽やかな喜びをいかに感じるかということだ。礼節のこころは育まれていく筈だ、と思つ。と云いながら、一方でそんなことお構いなしのあまりにも身勝手が多いことに、自分の云っていることばの空回りを感じているのだが。

家に行き、北新町には後で合流予定の父しかいなかったのですが、水位が上がる中借家の2階へ持つて上がったものは電話と一升ビンだけでした。じつと、水がくるのを見ていたそつです。その後、たらいに酒とビールと水を入れて泳いで来た教え子の方と酒宴になりました。

もう時効でしょうから構わんと思いますが、当時は卒業式が終わると、私共の家に卒業生が来まして酒盛りとなるわけです。父も下手に街で騒がれるよりましと思つたのでしよう。ある年など、来た卒業生に黒板に名前を書いてゆけといった処、50〜60人位になったと思ひます。又、卒業記念に炊飯器を頂戴した事がありました。その方々は次の日にその炊飯器で炊いた朝食を食べてゆきました。

釣りについてはマニアックです。とくにチヌ(黒鯛)は潮の干満に応じて夜中でも、早朝でもおかまいなしです。昼間にゴカイを掘り、後はチヌの都合に合わせてます。ハゼ、エバ、手長海老すくい、鯉、真好きでないとやらない釣りです。麻雀のメンツは学校と関係のない人が多かったよう



二人の愛息と

に思ひます。県庁、京染屋、運送会社の方などで二日ぐらの徹夜は平気でした。リンゴ箱でも勉強はできるといつて、子供達の試験期間中もおかまいなしです。

本人は野球の経験が無いのですが、野球部は気に入つてやつていたよつです。籠尾先生にバトンタッチしてからは裏方に回り、高野連の仕事をさせて頂き、それなりに職務をまっすきたと思ひます。将棋、そつそつ、パチンコと色々な話がありますが、この辺で。

土佐湾と高野川の魚(イオ)を大分、してちゆうぎ、骨でもまいて、動弁してもらつてくれ。これが本音かも知れませぬ。

現在、主婦業を入れると、数足のワラジをはいています。その主な一つは、この6月まで6年間代表を務めたボランティア活動です。それに関わるようになってから、いつの間にか14年になります。それは、海外で1年以上生活した母親と子どもの集まりで、21年前、英国大使館に夫が勤務していた一英国夫人と、海外

から帰国した3人の母親と、その子ども達でスタートした「文庫活動」です。

その頃、帰国子女はイジメの対象であることが少なくありませんでした。そうした子ども達に一種のオアシスを提供し、せつかく体験してきた他国の文化や言語を維持させひいては日本人として国際理解を深める芽を育む場を、



活動メンバー達と（後列左から3人目）

今こんなことしてきます

との願いからでした。現在もボランティアのネイティブ・スタッフと母親が運営しています。英語圏、フランス語圏、ドイツ語圏と、それぞれ子ども達が暮らした国の言語で、子ども達に本を読み聞かせることを中心に活動しています。十数年前、夫の仕事の関係で、当時カタコトの日本語を話し始めた息子とともに家族3人でイギリスで2年余り暮らししました。多少は話せると思っていた英語でしたが、相手の話が速くて聞き取れなかったことがまずショックでした。聞けなければ話せません。そして郊外に住む普通のイギリス人の母親にとつて、英語が話せないことは相手にする価値がないということであり、とんちんかなカタコト英語につき合うことは時間の無駄と感じられるらしいことに、再度カルチャーショックを受けました。母親と子どもの集まりに参加させてもらったものの、半年ほどは母子ともども透明人間にされて苦勞をしました。相手を無視して冷たくあしらう様子を、イギリスでは「カーテンウォールがかかったかのよう」と、慣用的に表

44

現すると近所のイギリス人のおばあちゃんに後で聞いたのですが、まさしくその通りでした。無視されても無視されても下手な英語でトライする他ありませんでした。生活にも慣れ、友人もでき、私の英語も「心臓の毛の数で勝負している」と夫から言われ、息子も耳から入った英語を流暢に話すようになった頃、帰国となりました。

幼少期、耳から入った英語は覚えるのも速いが忘れるのも速いものです。自分のような目に遭わないためにも、せつかくの体験をそのまま息子が活かせたらと思いました。成長とともに、息子は「文庫」から離れていきましたが、この小さな、縁の下の力持ち的活動は無駄ではないと思うようになり、母親の方は運営に深入りしていつてしまいました。

現在、この組織は、海外での日本語文庫としても普及し、国内外合わせて50以上の文庫を運営しています。昨年、20周年を迎え、記録映画社をはじめたくさんの方々へ支援していただき、それまでの歩みを映像として残すことができました。代表を務め終えた今



ロンドン支部での文庫20周年にて（右端）

は、若いお母さん達をバックアップしながら、われわれの活動の歩みとしてのみならず、幼児期の他言語習得にも役に立つこの映像の紹介をしていく予定です。映像紹介の皮切りは本年東京で7月、ロンドンでは日本大使館共催で9月に行われました。特にロンドン支部では、来年イギリス各地で草の根的に開催される予定の日本展に各地をまわってこの映像を紹介し、東京でも、国際子ども展の今年、色々な所で紹介していく予定です。お声がかかれば、風呂敷に背負ったビデオを持って馳せ参じますので皆様方よろしくお願ひします。

21



第8回はちきん会は、6月23日、29回生泉谷良彦氏をナイトに、氏の石油関係者の集り「薔薇の木会」と合同で、「薔薇とハチの会」として丸の内三菱クラブにて、にぎやかに開催されました。(今回も28回生から70回生ま

での「土佐」の女性達は輝いていました。)

足立さゆり(39回生) 33回生のS先輩よりお誘いのお電話をいただき、初めて「ハチキン会」に参加しました。熱気のコもる会場の中、

土佐高校卒業の女性たちが、先

はちきん会

輩の方から新卒の方まで、色々な分野で活躍されているのを見ることができ、頼もしく感じました。卒業以来高知を訪れる機会ほとんどな



い私にとつて、とても懐かしい一時でした。

上野 典子(51回生) 窓の外には皇居の森や霞ヶ関の高層ビル。都心ならではの夜景をバックに土佐弁の飛び交った今回は、一見シュール、でもいつもにも増して印象深い会でした。石油に携わる「脂」ののった紳士方のダンディズムとワインに酔いつ



つ、土佐を離れていてもますます磨きのかかった先輩方はちきんパワーに敬服。うら若きお嬢さん方からはエネルギーをたっぷりいただいて、久しぶりに、向陽の空と口ずさみながら家路を急いだ夜でした。

野崎弘子(70回生)

土佐高校を卒業して、はや6年になります。最近再認識したことは、土佐高出身者のつながりがとても強いということ。これくらいが普通だと思っていたのですが、ちよっとこんな学校はそうそうないようです。そんな学校を誇りに思っていた時、「は



ちきん会のお誘いを受け、お邪魔させていたところ、予想をはるかに超えて楽しい時間を過ごさせて頂きました。諸先輩方の楽しいお話しが本当にありがとうございました。

この会はいつでもご入会大歓迎です。
佐々木 (33) TEL&FAX 044-955-0562
E-mail hiro_art@muc.biglobe.ne.jp
金澤 (55) TEL&FAX 044-954-7581
E-mail apse@blue.ocn.ne.jp
西森 (57) TEL 03-3408-1454

メールボックス

詩集と、行き倒れのみみずと私と

土居泰夫（32回生）

私 去る6月20日を持ちましてそれまで働いておりまして会社の職務をお役ご免となり、引き続きチタン刃材等の販売を主たる業務とする会社で営業の仕事をして頂くことになりました。ただ、実を申しますと、甚だ横着ながらこの仕事は隠居仕事として、私には別にふたつの重大業務がございます。

そのひとつは、先頃、柄にもなく翻訳出版した詩集を早く多くの人に買って頂くことです。「ヘンリーの野生のサクランボ」なる弊翻訳詩集の原著は、数年前カナダ観光ツアーで立ち寄った教会の売店に置かれていました。信仰心浅くクリスマスチャンでもない私ですが、拝観料のつもりで買ったのがこの本でした。なにげなくではありましたが、当時いるんなことに行き詰まり、落ち込んで荒みがちであったため、何か宗教的なものに救いを求めていたのかも知れません。帰りの機中でこの本を

読むほどに清々しい気分になり、以来座右に置いて繰り返し読み直しております内に、

いつか心は癒されていました。そのうちに、この本はもつと広く多くの人に読まれるべき本ではないかと思うようになりまして。何よりも、この美しい詩が人々の心に平安をもたらしたいからです。宗教的なものではありませんが心の平安を得るための幸福論とも言えるものであります。こうして翻訳出版に取り組みましたが、以来1年余り、

何度か挫けそうになる私を支え、何とかこうして出版できる運びとなりましたのは、原作者ポーラック神父の励ましと、拙訳により減殺されてもなお輝きを放つ素晴らしさを評価下さり、この翻訳詩集の出版と、その売上の一部を地雷廃絶のためのボランティア活動に寄付したいとする私の企画に賛同して下さいた多くの方々のご支援の賜物であります。いまひとつは、細々と続けております「行き倒れのみみずを救う会」の活動であります。

す。次第に失われてゆく自然の中で、草や木を支える働きをしているのみみずが、石畳とセメントで覆い尽くされた道路の上で地面を探しあぐね、やがて日の光に体表の水分を奪われ、行き倒れになろうとしている姿ほど哀れなものはありません。まだ元気なのはそつと地面の上に置いてやるだけですが、乾いた土ほこりを被って息も絶え絶えといったダメージの大きいものは、水で洗い、地面に溝を掘って水を補給し、その中に横たえ、落ち葉などを被せてその上からまた水を掛けるなどの手当てが必要で

す。不器用な人生を過ごしてきただけに不器用な冒険者と言っべきみみずの身の上が他人事に思えなくなりました。付き合ってみますとなかなか興味のある生き物で、そのいくつになってもツヤヤカな肌不老の素合成のヒントが秘められているように思えます。とりあえずは彼らの行動形態の解明が当面のテーマです。いずれ「みみずのみみず」といったものにまごめられればと思っております。

どうやら私のこれからの人生は、片方の手にチタンの刃物を掲げ、もう一方の手に詩集を持ち、背中にみみずをおぶって歩いていくことになりそうです。いずれ売れ残りの詩集を枕にみみずを介護しながら自らも介護されているということになるかもしれませぬ。しかし、その日までは元気に面白く生きていきたいものと思っております。

「ヘンリーの野生のサクランボ」ポーラック神父の幸福指南詩」 一三一 円 ジュール・ポーラック著 土居泰夫訳 ストック刊 星雲社発売

ドキドキの総会出席 山口由紀（55回生） 私が土佐校同窓会の門を叩いたのは14年前、まだ独身だった私は、55回生の同窓生に会えるかもしれないと期待してデビューしたものでした。ところが会う人、会う人ナイスな叔父様ばかり、あらーと思っている間にずるずる同窓会の魅力に取り付かれてしまい、同級生の由里さんとY&Yなんぞと名乗る様になってしまいました。あの当時、貴重な独身時代の時間をなんと

多く同窓会に費やしたことが・・・今から思うと文句言いながらも結構楽しんでた自分が思い出されます。たまたま出席してくれた55回生の同級生に紹介して頂いてちゃっかり結婚までしてしまいました。主婦になって、9歳と6歳の子供達の母親となり、現在の生活は妻と母親業。

今年、久しぶりに総会に出席させていただきました。懐かしい顔顔・・・驚いた事に私の中の時間の経ち方と諸先輩方の時間の経ち方が違っていてとにかく皆さん若い!! 同窓会は生活感を殺してしまおうのでしょうか。独身時代の感覚を思い出しました。（これって、同窓会の魅力の一つじゃないのかしら。フムフム・・・） また、関東にいて高知出身者ばかりの中にいる心地よさ（高知にいて高知の人の中にいるのとは訳違）、そしてあらゆる分野でのハイソな先輩方のお話は、画一された世界で生活していた自分にとつととても良い刺激となりました。（本当に土佐校出身の先輩方は素晴らしい知識人ばかりでとても楽しいです。）時間が許す限りまた出席できたらと思っております。

今年、久しぶりに総会に出席させていただきました。懐かしい顔顔・・・驚いた事に私の中の時間の経ち方と諸先輩方の時間の経ち方と違っていてとにかく皆さん若い!! 同窓会は生活感を殺してしまおうのでしょうか。独身時代の感覚を思い出しました。（これって、同窓会の魅力の一つじゃないのかしら。フムフム・・・） また、関東にいて高知出身者ばかりの中にいる心地よさ（高知にいて高知の人の中にいるのとは訳違）、そしてあらゆる分野でのハイソな先輩方のお話は、画一された世界で生活していた自分にとつととても良い刺激となりました。（本当に土佐校出身の先輩方は素晴らしい知識人ばかりでとても楽しいです。）時間が許す限りまた出席できたらと思っております。

野球部惜敗・悲鳴メール集

Y・K (55 年生)

シヨックッー！

先週木曜日Fさんから、県大会を応援に行くというメールが入った。「ふうん、親戚をいろいろ殺して会社を休み県大会まで応援に行く野球きちがいはAさんだけではなかったのね」などと思いつながら、今の監督は誰だろうなどと考え、そんなことで盛り上げられるFさんを少しうらやましく思う。

電話をしてくるような用件ではない母の電話を取ったのが土曜日。「Yちゃん、土佐勝ったぞね」「ふうん」いつから、母は野球に興味を持つようになったのさ。などと考えながら、甲子園にも行くことになれば、80周年に花を添えていいかもかなんて思う。

雨で試合が順延になり、休み明けの月曜日、M大先輩に「甲子園に行けるかもしれない」と言っても、反応なし。一人で気になってしょうがない状態になってしまっているところに、80周年記念誌のこ

とで土佐校に電話することになり、「今日の決勝戦はやっているのでしょうか？」と本題を早々に済ませて三浦先生に聞く。順延とのこと。夜の二コースで高知だけ甲子園出場校が決まっていらないとのこと。盛り上がる舞台は整った。

ついに運命の日。Fさんからメールが来た。あいにく、部長と課長と3人で鎌倉まで打合せに行く。ために、携帯のメールアドレスに実況中継を頼む。どきどき情報が入る。行きの熱海行きアクティの中、携帯電話を握り締めながらメールを待つ。部長と課長との話しも気もそぞろ。どきどきした気持ちでFさんのメールを開ける。「8回裏終了で2・0」とのメール。「rebase」と打ったら「verame」と返事が来た。15分経っていたので、てっきり勝ったと思い、部長と課長に母校が甲子園に行くことを告げる。明日から忙しくなるじゃんと言われる。喜んでくれた。打合せは始まった。

いい気分です打合せも終わり、

湘南モノレールにのるんで乗った。また、Fさんのメール。祝賀会の案内かなどと軽い気持ちで開ける。えっ。勝ったんじゃないの。えっ。えっ。勝つて意味じゃないの。もちろんってなあい。大事な時に、イタリア語で送らないでえ。

シヨックッー！春はもつと気合いを入れて応援する。Fさんには松山でも高松でも徳島でも高知でも行ってもらう絶対！！くやし。しかも、明徳に負けるなんて。

S・F (42 年生)

我等が同朋諸兄姉殿。現場からの生の声をお伝えします。本日より始まる夏期集中講座も先生にまかせつきりにして私は春野球場へと行った。両チームともチャンスはあるものの決定打がです1回から8回表まで0行進。8回にフォアボールで出塁した土佐に適時打が2本でて2点リード。満員の土佐3塁側応援席は総立ち！それまでの合田投手の出来からいってもう甲子

園を取ったと思った。ところが9回表、明徳はエラーで出塁し、外野のまっすい守備も重なり、長打を打たれ4点をとり、可哀想すぎてみんな声も出ないほどシヨックを受けている。

しかし合田は2年生。高知商戦とは違ってかわつてのナイスピッチングに次回が期待できそう！今回は私の知っているレギュラーは合田投手だけだったが来年はいっぱい知っているのが出てくるき、ほんまにだれるちゃ。

試合のえいところできつちりケイタイが鳴る。んこトム工事、帝王、K嬢（彼女は後からきた）。「そんなに心配やったら仕事なんか放って球場へ来い！」と言ってやった。帝王には「テレビでやりゆうろっ！」としてまくつちやったちや！。ドラマーは来ていた。

この夏は甲子園を予定していたので行くところがなくなつた。声も出んが負けたことは仕方がない。次をめざそう！本当にシヨックです。解説も書けん。

M・I (41 年生)

くやしいなあ。目の前に甲

子園がぶらさがつちよつたのに。

僕は会社の電話を高知のテレビにつないで8回から聞きよつた。つないだとたんに2点入った。ついでと思つた。これで勝つたと確信したとたんに何かの具合で電話が切れた。その間に寄付集めの算段を始めた。それがいけなかつた。もう一度つないだ時には9回で満塁にされていた。そして、あれよあれよという間におわつた。夏の花火のごくにはかなかつた。

来年の春まで待てません、ああ。

H・M (41 年生)

今回は本当にチャンスだったのに……。あ、甲子園に行きたかつたな。それにしても手に汗にぎる好ゲームだったね。だから余計に行きたかつたな。うん、未練たらたら……。

H・S (33 年生)

あちこちからの悲鳴が聞こえてきます。ほんとに残念でした。寄付金を、と出した手をどつしよつか考え中。春には桜が咲くでしょう。

★出版しーター★

大原健士郎 (24 回生)

「悲しみを超えて 愛する人の死から立ち直るために」

創元社 2800 円

(監修) 新しい森田療法」

講談社 700 円

「心が強くなるクスリ・森田式健康法ノート」

三笠書房 1200 円

「精神鑑定 18 人の犯罪病理」

講談社 1600 円

竹内靖雄 (29 回生)

「家という迷信 超民営化のすすめ」

日本経済新聞社 1600 円

中城正義 (30 回生)

「さらば学校の世紀」

成甲書房 1400 円

土居泰夫 (32 回生)

「ヘンリーの野生のサクランボ」(訳詩集)

ジュール・ポラック著 星雲社 1200 円

塩田潮 (40 回生)

「欲望と嫉妬の海 日本政治・8 人の権力闘争」

学陽書房 1800 円

坂本隆 (47 回生・土佐高教諭)

「薫先生」

土佐中高同窓会出版 1200 円

坂東真砂子 (51 回生)

「愛を笑いとばす女たち Letters from Taniti」

新潮社 1200 円

「13 のエロチカ」

角川書店 1200 円

編集後記

「74 才なんて思えない」

先日、主人の知人で米国下院議員の M 女史と、昼食を御一緒した後で、思わず口に出た

ワシントン DC、国会議員食堂でのことだ。年なんてまるで気にしないで自分の道を行く女史。話していると自分の

未熟さが見えて恥ずかしい。秘書の一人が「年を言えば、98 才の上院議員もいらつしや

いますよ。頭もシャープで、すばらしい方です。今度選挙で勝てば、6 年の任期中に

「才を超えますね」と教えてくれた。比べれば私などまだまだヒヨコ。勉強しなきゃ

あ。(佐)

近頃渋味も増した I 先輩は、若かりし頃、大物女優 DF に

井の頭公園でナンパされたらしい。芸能界からのお誘いもあったほど、溢れる魅力いっぱい

でなかなかの女性キラーであったと聞く。同窓会 V I P の M 先輩は、大昔、長浜から

桟橋まで巡航船で通学していた。女子学生の憧れの的、港ではマントを翻しただけで

黄色い声があがったらしい。タイムマシーンでその頃に戻

り、その時代の女子学生になってみたい。私も彼らにときめくかしら? (Y)

11 月も半ばを過ぎると奥多摩の山から順に下ってきた紅葉で武蔵野の灌木もすっかり色づいてしまった。天気の良い日は、午後の日差しに金と赤とがきらめいて、あたり

一面の大気は透明で、やたら明るい。アカシヤの金と赤とが散るぞえな。かはたれの秋の光に散るぞえな。片恋の薄着のネルのわが愁い

曳船の水のほたりを行く頃に、やはらかな君が吐息の散るぞえな

白秋

調布から国分寺にかけて古い大きな断崖があつて国分寺崖線と呼ばれているが、この崖線に沿って湧水が沢山ある。崖線の下を野川が流れている。野川の源流はこの湧水群である。最上流は国分寺駅北口の

日立中央研究所の中らしい。野川は、日立中研を流れ出たところは幅 1 米に満たない細い流れで三鷹のあたりで少し川幅が広がるが相変わらず小川の域を出ず、調布で多摩川に落ちるまでずっと小川であり続ける。崖線と野川と湧

水とただそれだけであるが、この地形は古くから武蔵野に住む人々に「はけ」の地形として親しまれ、多くの湧き水は人々の生活を文字通り潤してきた。

をちこちの雑木林や野つ原や古い農家の塀沿いや瀟洒な近代住宅の間を走る舗装された小道の上に、今ごろの季節は沢山の木の実が落ちて散らばっている。公孫樹の木も多

く、銀杏もそこかしこに落ちてい

る。木に登って枝を揺するとバラバラと落ちてくる。どんぐりも沢山落ちてい

る。大きなどんぐりで、楊枝を挿して独楽にしてまわしたらよ

くまわる。極めつけは柿の実で、この赤い大きな実が熟して、小道の上にはいつぱい落ちてい

る。自然落下と野鳥にっ

いばまれて落ちたのと、可愛くないのはしぐと鳥に食い散らかされて落とされたのと。暮れやすい一日は、僅かの散策にも人の足を早めさせ、帰路を急がせる。時に西の空に赤い雲を見ては故郷の空を思い出し、客心を痛ましめる。岡々は胸に手を当て退けり夕照は慈愛の色の金色の中也

(N)